

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0191000132		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム 若葉(ユニット2)		
所在地	江別市野幌若葉町86番地の1		
自己評価作成日	2023年2月9日	評価結果市町村受理日	2023年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000132-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	2023年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さまとともに制作活動を行ったり、集団体操でも活発に体を動かすことができいております。毎月のレクリエーションで季節を感じていただいております。職員は入居者さまと楽しみながら支援ができています。お話し好きな方が多く、職員交え笑いの絶えない明るい雰囲気のフロアであると思います。比較のお元氣な方が多く、コロナ禍もあり外などに出かけられないのが残念です。当法人のクリニックや訪問看護と連携をとりながら、その人らしい最期を迎えていただけるように終末期ケアも行っており、お看取りまで安心して生活をしていただけたと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江別市野幌の西側にある閑静な住宅地に位置しており、2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には、小学校や大学、コンビニなどがある。法人は、医療法人を母体としており、認知症高齢者グループホームを始め、医療系有料老人ホームや訪問介護、通所介護、訪問看護、居宅介護支援事業所などを旭川市を中心に札幌市や道内、首都圏で運営し、積極的に高齢者介護の支援を行っている。医療法人が母体ということもあり、24時間の医療支援体制が整っており、重度化や終末期にも積極的に対応している。法人内のPTによる生活機能向上連携支援もしている。事業所内は、リビングは広くゆったりしており、整理整頓され、利用者はリビングで寛いで過ごしている。新型コロナウイルス感染症対策の為、面会や外出も制限しているが、敷地内での外気浴や散歩など支援しており、感染症終息後は外出行事も再開する予定である。認知症高齢者支援の事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は入居者様のご家族、職員の目に留まる所に掲示されている。また、ユニット会議では会議の冒頭に参加者全員で読み上げ共有できている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により、運営推進会議はホーム内で入居者様と職員のみで行われている。入居者様は施設以外の方々との交流は行われていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により、地域の方々に発信できる機会がなくていい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により、運営推進会議は書面での連絡のみとなっている。議事録はホーム内に掲示している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響により、対外的な活動は行えていない。毎月の書類やその都度情報を捉え交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為に玄関を施錠しているが、日中は解錠している。また、3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会において身体拘束の継続を協議している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内でweb研修を通して、虐待について学ぶ機会を設けており3カ月に一度、虐待チェックリストにより振り返りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でのweb研修や勉強会、管理者会議内での研修を通じ制度を理解する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には疑問点や不明点がある時には、いつでも問い合わせをして頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には重要事項説明書にて、苦情受付窓口の説明をしている。また法人内ご家族にアンケートをお願いし、ご意見をお伺いしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回ユニット会議を開催し職員の意見を聞く機会を設けている。日々の業務内でも広く意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で介護福祉士の資格取得の講習を行っている。また資格取得状況や勤務年数に応じて昇給や資格手当の支給が行われている。各自の労働条件他は個々の希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員の評価を行い職員の力量を把握している。管理者会議内でのグループワークで様々な課題に取り組んでいる。新入職員にはオリエンテーションと研修が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナの影響により、交流会などの活動は出来ていないが、管理者はネットワークを通じて空室状況などの情報を開示している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の自宅や入院先を訪問しご本人のご希望を伺い、ホームの生活に対する不安を取り除くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人やご家族のご希望や困っている事をお伺いして良い関係を築けるように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談やアセスメントなどを通して、要望をお伺いし、必要なニーズを把握できるように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナの影響で食事作りはできないが、洗濯物たたみなど、お手伝いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にホームでの様子をご家族にお伝えし、制限のある中で面会をして頂いたり、電話でお話頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限のある中でご友人と面会して頂いたり、電話を通じて話をして頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の様子を日々観察させていただき、良好な関係を作って頂けるように努めている。また入居者さまが孤立しないように職員は気を配らせて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様は退去後であっても、不明な点などのご相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の殆どがご自分の意思表示ができる方々なので、お一人お一人の意見や希望をお伺いして月1回のユニット会議で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やアセスメントシートなどを通じて、生活歴を把握しホームに入居されても安心して過ごして頂けるように職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の行動や言動を介護記録に記録し状態把握に努めている。会議を通して職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。作成に当たって御本人や御家族に意向をお伺いしている。また担当職員によるモニタリングやアセスメントにより会議を通じ計画に反映させている。状況の変化に応じてその都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を介護記録に記録し、朝夕の申し送りを行い情報共有している。また連絡ノートを通じて入居者様の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部マッサージ等受けられている。(クラスター発生により現在中止中)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域の方々との交流や資源を生かすことが出来ていない。毎月ホーム内で行事を計画し日々の生活を楽しんで頂けるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御本人やご家族に入居前のかかりつけ医に継続するか伺っている。現在は協力医療機関の月2回の訪問診療、週1回の訪問看護を受けており、24時間体制の医療を受けられるよう、支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携機関による毎週の訪問看護により、普段の様子や状態をお伝えし、適切な指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携機関により入居者様の体調管理をしている。入院時には医療情報を提供し、ホームでの様子を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に御本人や御家族に意思確認を行っており、定期的に確認を行っている。御本人にはアセスメント作成時に都度お伺いしている。また職員は終末期における研修を受けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、目の届く場所に保管している。会議等を通じて職員間で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響により、消防署の協力の元での訓練は実施出来ていない。年に2回、日中や夜間を想定しての自主訓練を実施している。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は接遇研修を受け、勉強会や接遇チェックリストなど職員への伝達を行い再確認している。入居者様の人格尊重とプライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活内での入居者様の言葉や表情に注意を払い、御本人の希望を伺い自己決定の機会が増えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々の生活において入居者様の体調等に注意を払い、日課やレクリエーションに参加して頂く際には入居者様の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を最優先している。その人らしさを大切に、愛用の化粧品を継続して使用して頂き、季節や場面にあった装いをして頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容は業者に委託している。コロナの関係で食事の準備は入居者様とは出来ていないが食器拭きは手伝って頂いている。行事食は入居者様の希望をお伺し取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランスは委託業者により確保されている。お一人お一人の咀嚼力や飲み込み状態に応じ形態を変えて提供している。水分量は毎回記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い見守りを行っている。口腔ケアが不十分な入居者様には仕上げ磨きなどの介助を行っている。また義歯や口腔の状態に不具合が生じた時には訪問歯科の受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録に個々の排泄状況を記録している。排泄間隔を考慮したトイレへの声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を別表で記録しており、排便状況により最低限の下剤等の調整を医師と相談しながら行っている。また便秘防止の為に毎朝の牛乳提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は基本的に週2回、曜日を決めて入浴をさせて頂いており、御本人の体調や希望により入浴日を変更している。入浴時の会話やゆっくりと浴槽につかって頂き、リラックスできるように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の体調や傾眠状態により居室での休息をして頂いている。また夜間良眠出来るようににつぶりの活動や体操の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情報をファイルし、職員が薬の薬効や副作用などを確認できるようにしている。また新たに処方された薬の情報は連絡ノート等を活用し職員で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人や御家族から生活歴やお好きなことを伺い、毎日の生活の中で家事や役割を持って頂き張り合いや喜び、生きがいに繋げられるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、外出行事は実施出来ない。天気の良い日は近所の公園に散歩に出かけて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族が金銭管理を行っている。個人の預り金は金庫内に保管し、お金の心配をする方にはお預かりしている番を告げ、安心されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙での交流には制限を設けていない。ご家族からの電話はいつでも受け入れ会話を頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のスロープ前に花壇を設けベンチに座り季節の花々を楽しんで頂いている。また季節折々の作品や行事での写真を施設内の廊下や階段の壁に貼り、楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の食席の他に共有スペースにソファを置きテレビを見たり、会話を楽しんで頂いたり、新聞を読んで頂いたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や趣味の品々を持参して頂き、安心して生活して頂けるように支援している。自立して生活ができるように家具の配置を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはご自分の居室と解るように表札を貼らせて頂いている。共有のトイレや浴室も解り易い様に表示している。		